

ペットの熱中症予防

飲水量と気象の関係



背景

近年は地球温暖化の影響で夏の暑さがさらに高まっています。そんな中、心配になってくるのが熱中症です。人間にも猛威を奮ってくる熱中症。今年も日本では熱中症による緊急搬送人員数が1週間(2021年7月19日～7月25日)で8122人となっていて、これから気をつけなければいけません。

しかし、気をつけなければいけないのは人間だけではなく、ペット保険のアニコム社の調査では、年間で8月の熱中症による保険診療件数が300件※を超えています。さらに、発生場所の内訳をみると屋内が67%、屋外が33%となっていて屋内外問わず発生していることから、ペットにとっても危機迫る季節であり、私たちがペットの事をよく理解しお世話する事が非常に重要である。

※アニコム社による自社調査結果・HPより引用

1. 研究の動機

私の家には、今年で9歳になるゴールデンレトリバーがいます。

ゴールデンレトリバーは長毛種のため毎年夏は暑くて大変そうです。

少しでも暑さが和らぐよう、朝と夕方に水をまくなど対策はしていますが、犬が重度の熱中症にかかって病院に運びこまれた場合、死亡率が57%にも及ぶという記事を見るとやはり心配になってきます。

そこで、犬の熱中症についてしっかり理解しておくことで熱中症や熱中症の重症化を防ぐことができ、大切な愛犬を守る事ができるのではないかと思います。この研究テーマに決めました。

【調査項目】

- ①犬は1日にどのくらい水を飲むのか？
- ②我が家のペットは実際にどのくらい水を飲んでいるのか？
- ③気候によって飲水量は変化するのか？

【1日飲水量の調査方法】

昼の飲水量: AM7:00～PM18:00
夜の飲水量: PM18:00～AM7:00
毎回、給水容器に3L注ぐ。残量を計量カップで計量し
飲水量を記録する

図1 『犬』一日の飲水量

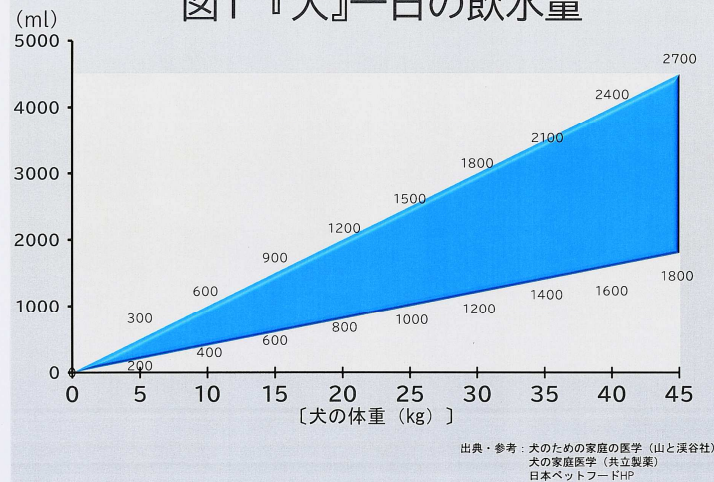


図2 日照時間と飲水量

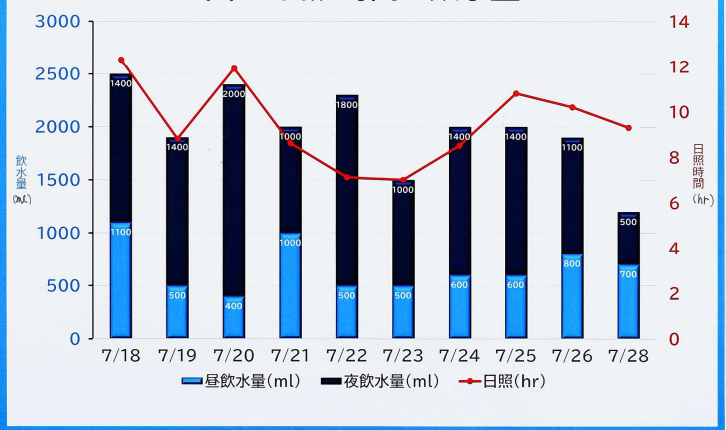


図3 最高気温と一日飲水量

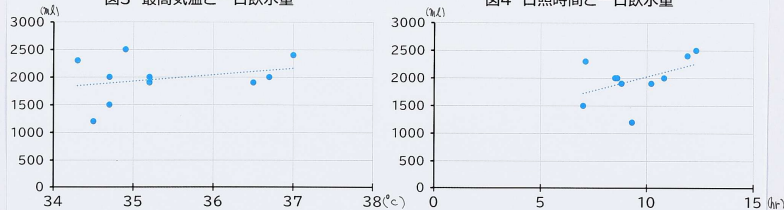


図4 日照時間と一日飲水量

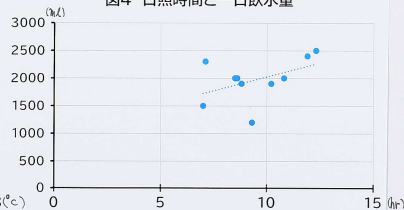


図5 最高気温と昼の飲水量

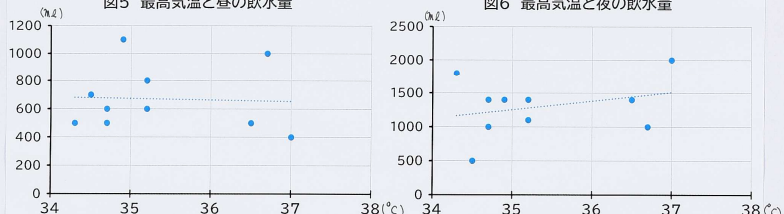
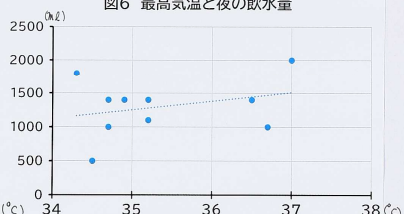


図6 最高気温と夜の飲水量



考察

最高気温や日照時間の増減と共に1日の飲水量も増減していました。図1のグラフも踏まえて図2のグラフを見ると1日の飲水量は基準値以内となっているので熱中症になるリスクは少しは低いと思いました。

しかし、夜はたくさん水を飲んでいるものの、昼間はあまり水を飲んでいなく、あまりにも飲まないでいるとやはり熱中症になってしまう可能性があるため注意して見ておこうと思いました。

図5を見てわかる通り、最高気温が上がると昼間の飲水量は減り、夜の飲水量は増えていました。夜に水をたくさん飲んでいるのに対して昼間はあまり水を飲んでいない理由としては、気温が上がってくると暑さから逃れるためにウッドデッキの下に潜ってしまい、それ以降暑さが和らいでくるまで出てこなくなってしまう、水も飲まなくなるためだと考えました。